

# 暖冬に思う

ながつか よしはる  
長塚 義治

日本郵政公社労働組合・企画部長

昭和20年、長野県栄村にあるJR飯山線「森宮野原駅」は、7m85cmの積雪を記録し「日本最高積雪地点」と表示された標柱が立っている。ちなみに駅で観測された積雪では、今もこの記録は破られていないという。

昨年の冬は、各地で豪雪被害が相次いだ。消防庁のまとめでは、20道県で死者150人に及び、このうち97人が65歳以上の高齢者だった。屋根の雪下ろし作業中の転落事故が連日のように報道されたのも記憶に新しい。

一転して今年は暖冬である。1月31日には東京の最高気温が17℃に達した。これは桜が満開の時期に相当するらしい。このまま暖冬が続くかどうかは不明だが、雪不足もまた様々な社会現象を引き起こしている。

スキー場は開店休業。各地の冬のイベントも四苦八苦。暖房器具や冬もの商品の消費が伸び悩んでいる。また、暖冬の影響は動物にも影響を与え、クマやタヌキが冬眠できず、干支のイノシシは、餌が豊富なため元気に駆け回っているらしい。

こうした異常気象は地球規模で観測されている。カリフォルニア州などアメリカ中西部は、大寒波によってオレンジが高騰。ニューヨーク

では1月に桜が咲き、オーストラリアは史上最悪の干ばつ、アフリカ東部では洪水による被害が多発した。ロシアやヨーロッパは暖冬で平均気温が3～4℃高くなっているという。

この世界的な異常気象は、エルニーニョ現象が一因とされているが、気象庁によると、4年ぶりに発生したエルニーニョ現象は春まで続き、日本海側の小雪傾向は変わらないとしている。

一方、地球温暖化も着実に進行している。20世紀中の地球平均気温は0.6℃上昇し、この数十年では北極の海氷の厚さが40%減少、2100年までに30cmから1mの海面上昇が予測されている。こうした地球温暖化に伴う気温の上昇は、海水温度の上昇にも影響し、エルニーニョ現象を多発させる可能性も指摘されている。

地球温暖化の原因は、火山活動などの自然説と温室効果ガスによる人為説があるようだが、1990年代が20世紀の中で最も暖かい10年という観測データからすれば「人為説」が正しいのではないだろうか。

終末時計は、地球滅亡までの時間を2分進められ残り5分となった。核戦争の脅威を示す終末時計だが、地球規模の温暖化や気候変動もまた地球滅亡の脅威となっている。